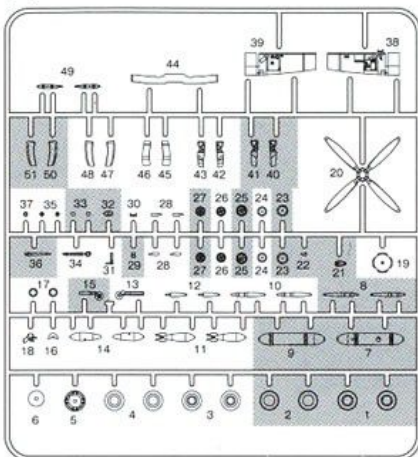
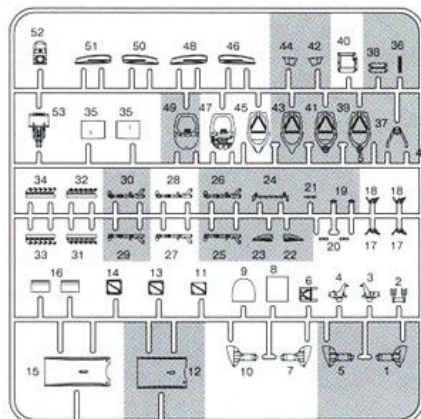


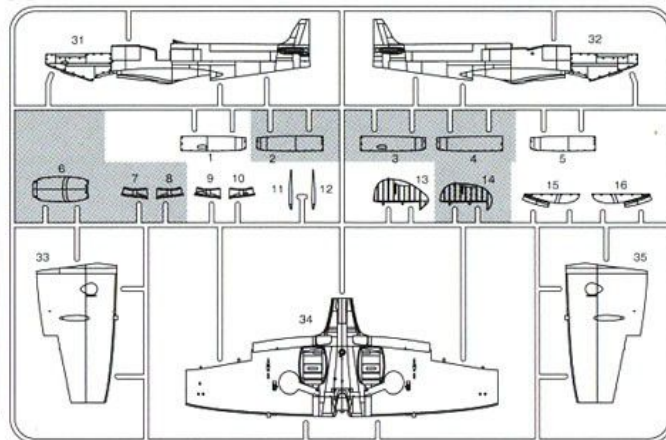
A



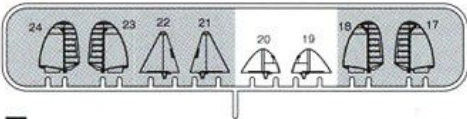
B



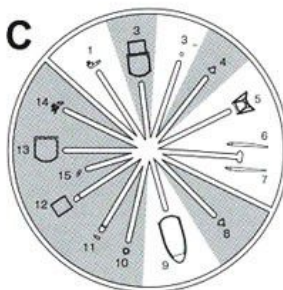
K



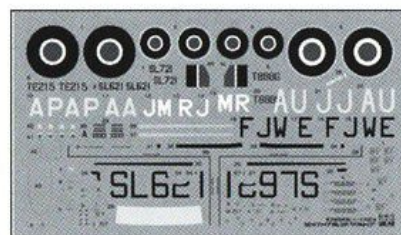
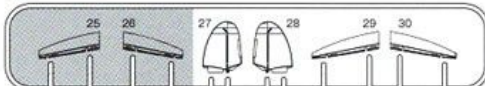
D



C



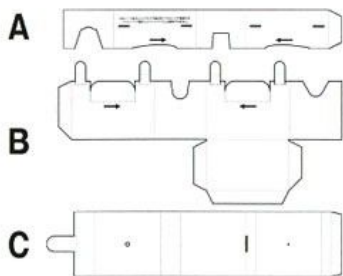
E



デカール

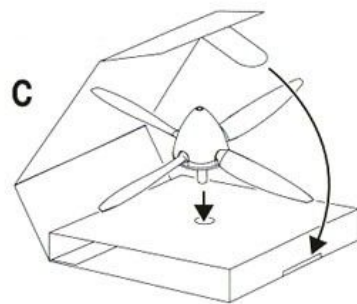
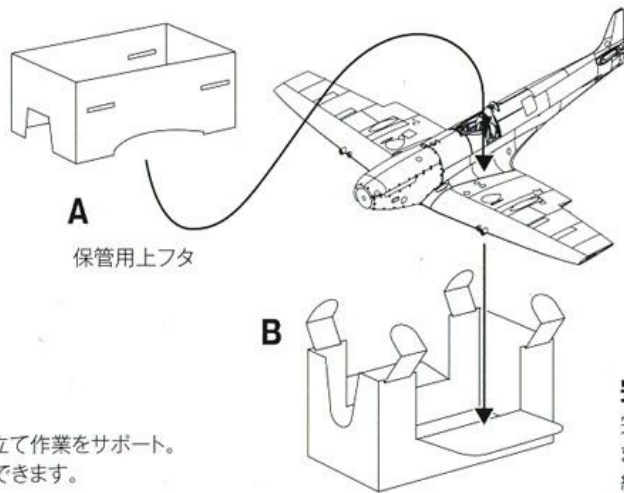
作業・完成品保管用スタンドの使用法 ■内箱底面をご覧ください。

パーツA～Cを実線に沿って
丁寧に切り出し、山折り/谷折りの指示に従
って組み立て、のりしろを接着します。



組み立て時の台座として

機体を浮かせた状態で保持することで、組み立て作業をサポート。
脚などのパーツ取付作業を確実に行うことができます。



完成品保管用の台座として

完成後は作品保管用の固定スタンドとしても使え
ます。機体を確実に固定することで、
繊細なアンテナなどの破損を防ぎます。

デカールの貼り方 How to apply decals

●デカールの絵柄を傷つけないよう、使いたい部分だけはさみやカッターで切り抜いてご使用ください。●水に数秒つけて、引き上げてください。●貼りたい場所に滑らせて貼り付け
ます。水を含ませた筆や綿棒などで位置を決め、余分な水分を取り、そのまま乾燥させます。デカールソフター(柔軟剤)をご使用ください。●デカールの上からクリアや仕上げ剤を上
塗りする場合は、塗装前に十分に乾燥させてください。■Cut out what you want to use out of the sheet, to not hurt surface of printing. ■Place on surface of water
in a few second ■Slide it off on place where you want. Trim position with wet soft cloth or cotton stick. ■To Adhere decal decal softening materials
■Dry up completely if you want to cover the surface with clear paint.

コックピット～胴体を組み立てる

8 4678 シルバー Silver
33 4768 ツヤ消しブラック Flat Black
3644850 エアクラフトグリーンの B5283 Aircraft Grey Green B5283
33 4768 ツヤ消しブラック Flat Black
29 4609 黒色 Black

8 4678 シルバー Silver
33 4768 ツヤ消しブラック Flat Black
3644850 エアクラフトグリーンの B5283 Aircraft Grey Green B5283

33 4768 ツヤ消しブラック Flat Black
29 4609 黒色 Black

仕上げ方によって使用するパーツが異なりますのでご注意ください。

主脚を組み立てる

a A24 A3 A4 A26 A28
b B20 B27
c B20 B28
x2

プロペラを組み立てる

d A19 A5 A20
 キャノピー、ドアともに開ける。
(塗装後に取り付けます)
 キャノピー、ドアともに閉める。
 キャノピーは開け、ドアは閉める

爆弾を組み立てる 塗装例 A ④

e A14 A11 A28 A17
x2

主翼を組み立てる

? 塗装例 A ③ 爆弾架の取り付け穴 (お好みで取り付けください) 0.8mm のドリルで穴を開けます。
? 塗装例 A ③ 爆弾架の取り付け穴 (お好みで取り付けください) 0.8mm のドリルで穴を開けます。
? 塗装例 A ① スリップタンクの取り付け穴 (オプション：別紙「塗装とデカール」を参照してください) 0.8mm のドリルで穴を開けます。
? 塗装例 A ①

脚庫の縁の一部を切り取ります。(左右とも)
 塗装例 D 削り取ってください。 ※削り取る前に穴が開かないようにパチなどで裏打ちしておきます。
 塗装例 C ④ D19 塗装例 C ④ D20 塗装例 C ④
 K12 または C7 塗装例 A ④
 K11 または C6 塗装例 A ④

★=裏打ちが透明にする場合は C6、C7 を使います。

指示の無い部分の塗装は別紙「塗装とデカール」を参考にしてください。

胴体と主翼を組み付ける

? 塗装例 A ③ ④
? 塗装例 D
? 塗装例 A ③
 塗装例 A ③ 「主翼を組み立てる」で開けた穴に取り付けます。

正面図
 主翼の上反角の参考にしてください。

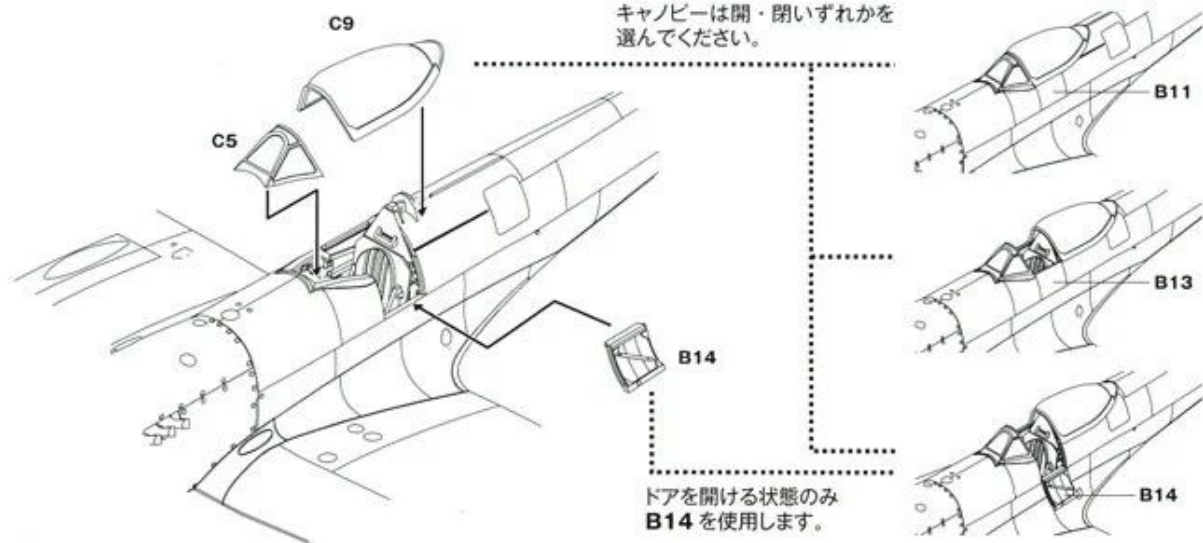
塗装例 A ③
 塗装例 D
 塗装例 A ③

塗装例 A ③
 塗装例 D
 塗装例 A ③

塗装 別紙「塗装とデカール」を参考にしてください。

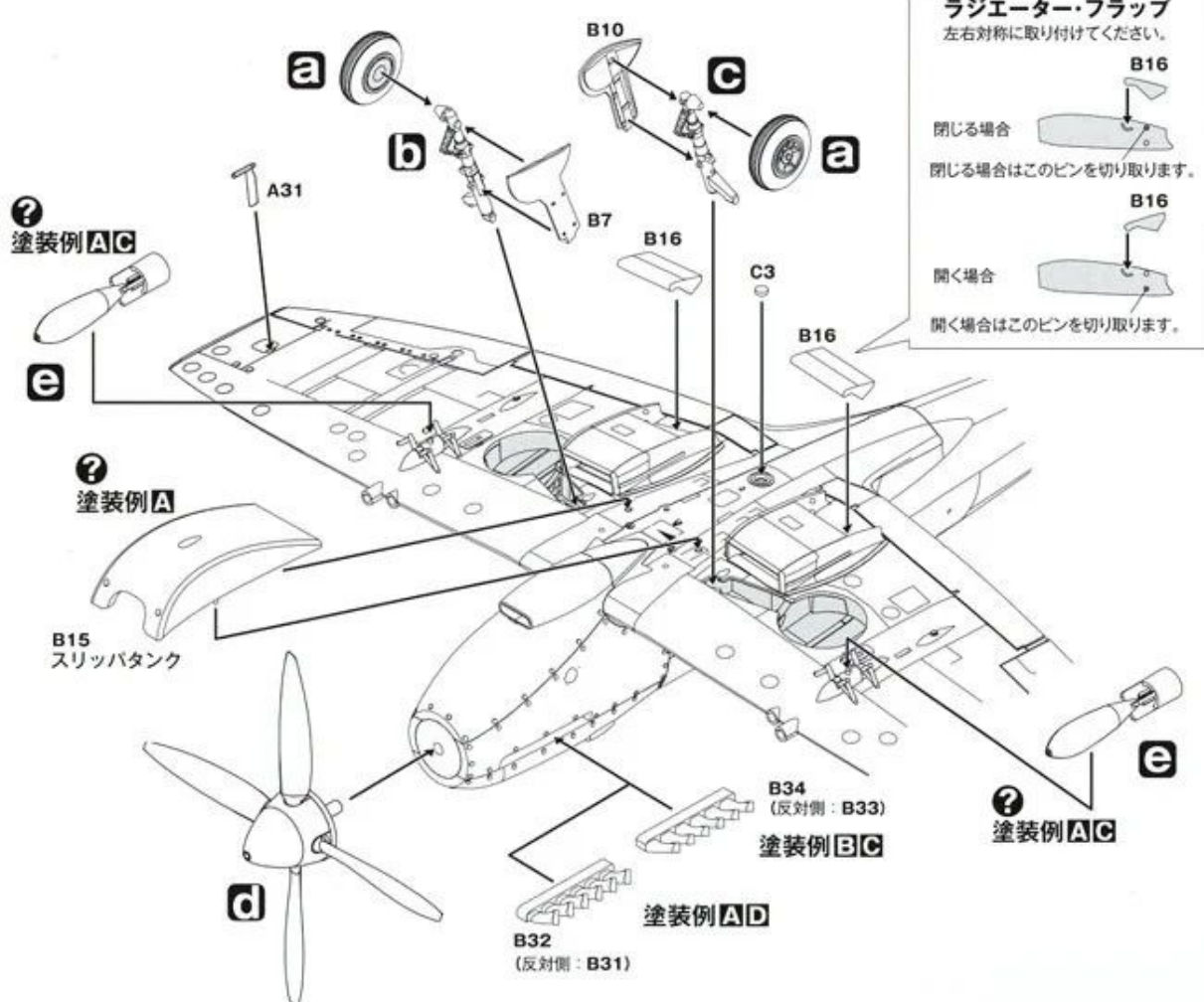
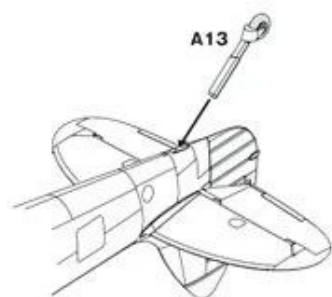
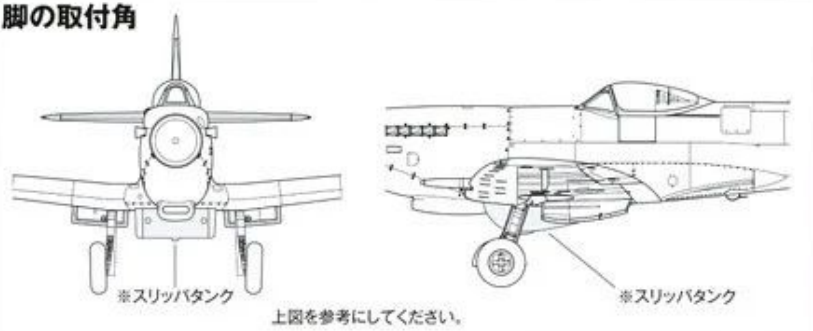
キャノピーを取り付ける

キャノピーは開・閉いずれかを選んでください。



プロペラ・脚・主翼下面を組み立てる

脚の取付角



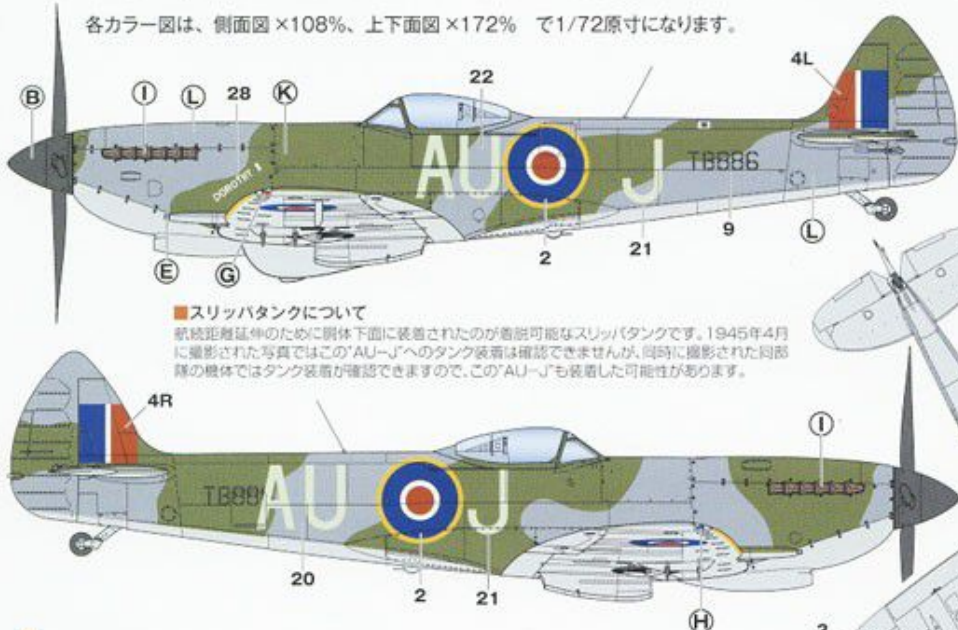
塗装とデカール

スピットファイアMk.XVIIについて

1936年の初飛行以来、10年以上もイギリスの主力戦闘機として活躍したスピットファイア。第二次大戦前夜から終戦にいたるまで、常に第一級の性能を備え続けることができたのは、基礎設計の優秀さによるものでした。機体の基本構造を大きく変えることなく高出力なエンジンに換装していくことで、戦闘機としての性能を高めて続けることができたのです。そんなスピットファイアの歴史の中で、このMk. XVIIは大戦後半の主力と位置づけられるMk. IXとほぼ同仕様の機体です。両タイプの違いは、搭載されているエンジンの生産国。いずれも過給器の性能向上で大幅

に出力アップしたマーリン60系エンジンを搭載していますが、英国製マーリンを搭載したMk. IXに対し、Mk. XVIIは同仕様のマーリンをアメリカでライセンス生産したものを搭載。また、このMk. IX/XVIIの外見上の大きな特徴として、生産の途中(1945年2月)からキャノピーのスタイルが大きく変わったこともあげられます。従来のファストバックスタイルから「バブルタイプ」に変更されたことで、スピットファイアは戦後世代の戦闘機にも通じるより近代的なスタイルを獲得。そして、その生産は1945年7月まで続けられ、戦後も多くの機体が現役にとどまることになったのです。

各カラー図は、側面図×108%、上下面図×172% で1/72原寸になります。

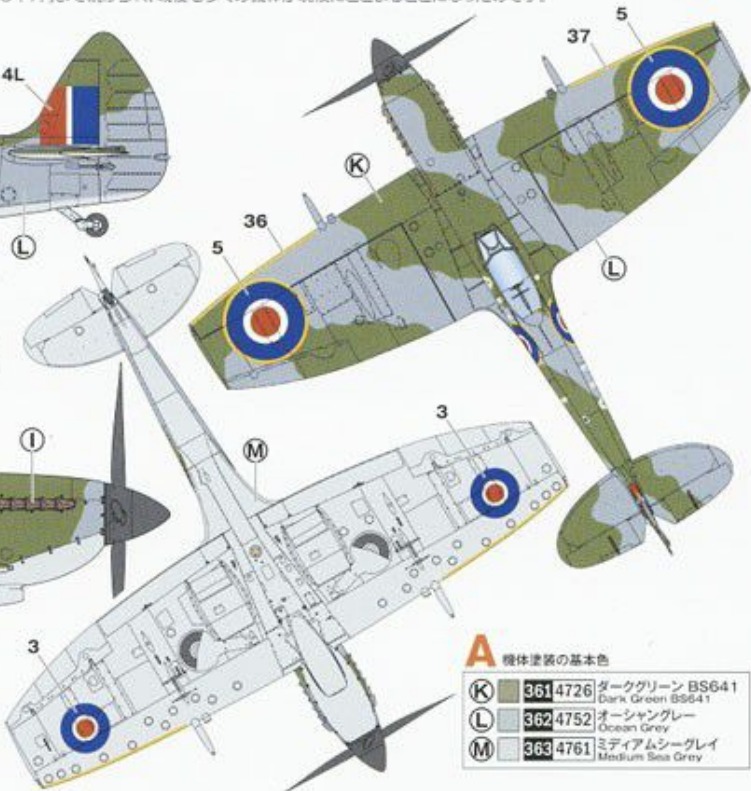


■スリッパタンクについて

航続距離延伸のために胴体下面に装着されたのが特徴的なスリッパ(タンク)です。1945年4月に撮影された写真ではこの「AU-J」へのタンク装着は確認できませんが、同時に撮影された同部隊の機体ではタンク装着が確認できますので、この「AU-J」も装着した可能性があります。

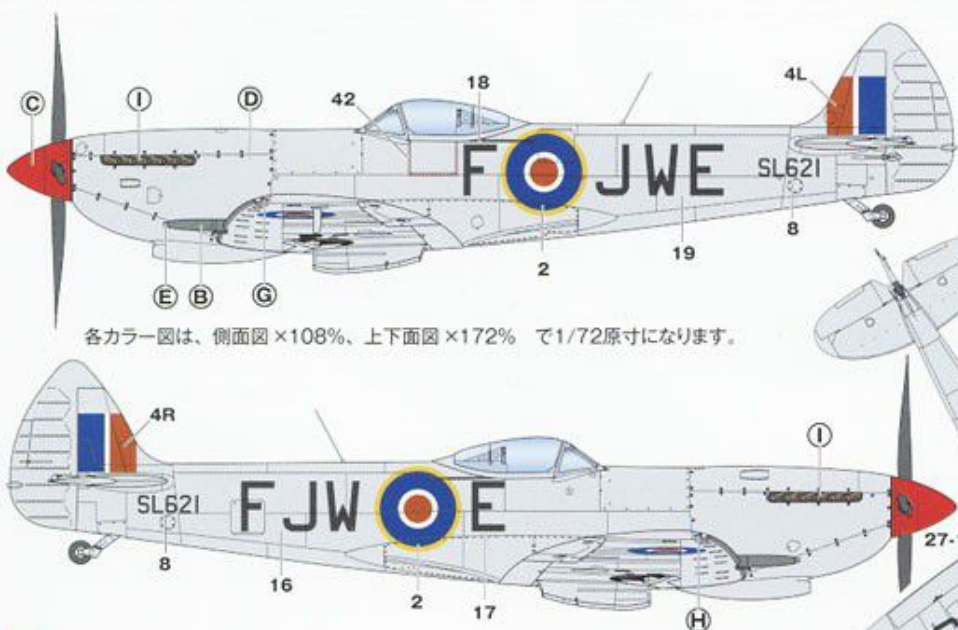
A "AU-J" TB886 (F XVle) 421Sq, RCAF Germany April 1945
カナダ空軍 第421飛行隊 ドイツ 1945年4月

曲線が美しい滑り翼がスピットファイアの特徴ですが、バブルキャノピー型のMk. XVIの多くは翼端をカットした「切新翼」仕様で完成しています。実戦への投入はヨーロッパでの終戦が近い1945年春以降となりました。実戦部隊でのバブルキャノピー型Mk. XVIIは、地上部隊支援を主任務とする戦闘機としての運用が中心となりました。低空での運動性向上のために導入されたこの切新翼は、標準翼よりもロール率が高く、強度も高いのが特徴でした。



A 機体塗装の基本色

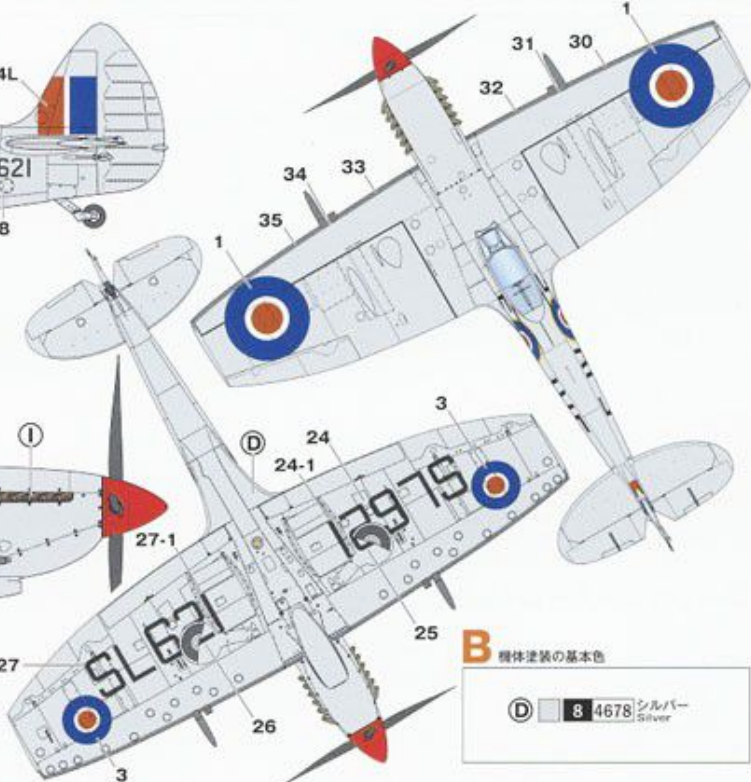
(K)	361 4726	ダークグリーン BS641 Dark Green BS641
(L)	362 4752	オーシャングレー Ocean Grey
(M)	363 4761	ミディアムシーグレイ Medium Sea Grey



各カラー図は、側面図×108%、上下面図×172% で1/72原寸になります。

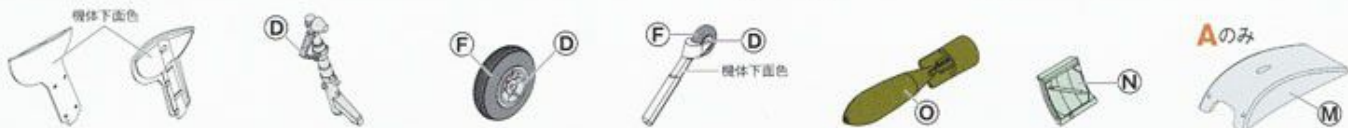
B "FJW-E" SL621 (F XVle) Central Gunnery School RAF Leconfield Yorkshire 1946-1950
イギリス空軍 中央射撃学校 ヨークシャー州 レコンフィールド基地 1946年~1950年

中央射撃学校は、戦闘機と爆撃機双方の空中射撃に関する教官を養成するイギリス空軍の学校。戦後まで生産が続けられたMk. XVIIは、同じく戦後型のグリフォンエンジン搭載型スピットファイアよりも扱いやすかったため、こういった任務などでも戦後も長く運用されることになりました。機体は、無塗装の金属地肌ではなく、銀テープによる銀色塗装仕上げ。主翼前縁が帯状に黒く塗装されているのが特徴です。



B 機体塗装の基本色

(D)	8 4678	シルバー Silver
-----	--------	----------------



すべての塗装例に共通する注意書等のデカール(コーションデカール)は、裏面を参照してください。

使用する塗料 Paints for use		1 = GSクレオス/Mr.カラー Mr. Color		4696 = テスター/モデルマスター Model Master	
(A)	1 4696 ホワイト White	(D)	8 4678 シルバー Silver	(G)	47 4630 クリアレッド Clear Red
(B)	2 4695 ブラック Black	(E)	28 4681 黒鉄色 Black Iron	(H)	50 4658 クリアブルー Clear Blue
(C)	3 4714 レッド Red	(F)	33 4768 フラットブラック Flat Black	(I)	61 4676 焼鉄色 Burnt Iron
(J)	29 4609 無底色 Clear	(K)	361 4726 ダークグリーン BS641 Dark Green BS641	(M)	363 4761 ミディアムシーグレイ Medium Sea Grey
(L)	362 4752 オーシャングレー Ocean Grey	(N)	364 4850 エアフライトグレイ Aircraft Grey BS283	(P)	370 - エイザーブルー Azuro Blue
(O)	12 4728 オリブドラフ Olive Drab				



各カラー図は、側面図×108%、上下面図×172% で1/72原寸になります。



C "AP-A" TE215 (HF IXe) 130 Sq. RAF Odiham Hampshire 1946
イギリス空軍 第130飛行隊 ハンプシャー州 オディハム基地 1946年

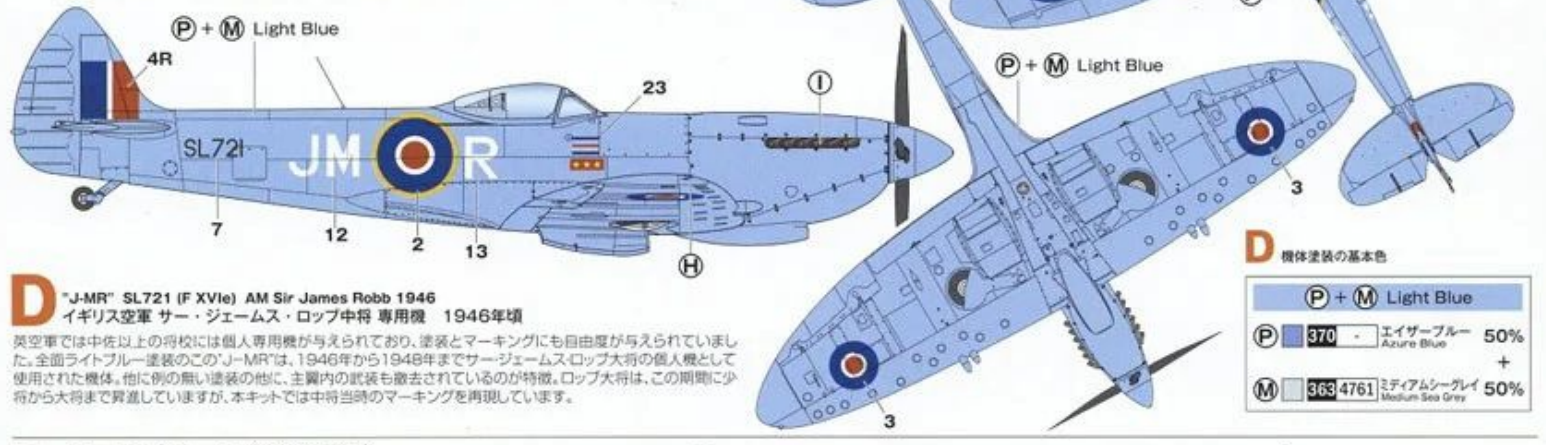
パブルキャブ型Mk. IX/Mk. XVIの多くは、切断翼装備で完成し部隊配備されましたが、この"AP-A"は標準翼を装備したタイプ。第130飛行隊は、戦争末期にはグリフォンエンジン装備のスピットファイアMk. XIVを装備して、ドイツのV-1飛行爆弾迎撃任務などに就きましたが、終戦後すぐにこのMk. IXに機種変更。さらに1946年には早くもデハバランド・ハンノイアを装備するジェット戦闘機部隊となっています。

C 機体塗装の基本色

(K)	3614726	ダークグリーン BS641
		Dark Green BS641
(L)	3624752	オーシャングレー
		Ocean Grey
(M)	3634761	ミディアムシーグレイ
		Medium Sea Grey



各カラー図は、側面図×108%、上下面図×172% で1/72原寸になります。



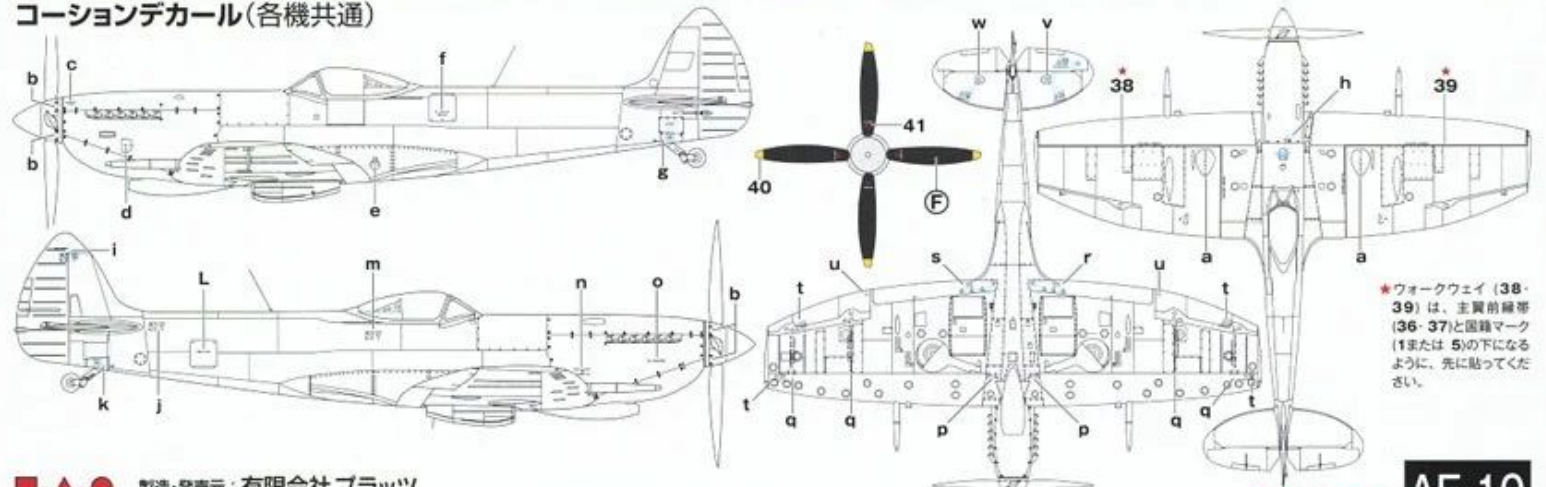
D "J-MR" SL721 (F XVIe) AM Sir James Robb 1946
イギリス空軍 サー・ジェームス・ロップ中將 専用機 1946年頃

英空軍では中佐以上の将校には個人専用機が与えられており、塗装とマーキングにも自由度が与えられていました。全面ライトブルー塗装のこの"J-MR"は、1946年から1948年までサー・ジェームス・ロップ大尉の個人機として使用された機体。他に例のない塗装の他に、主翼内の武装も撤去されているのが特徴。ロップ大尉は、この期間に少将から大將まで昇進していますが、本キットでは中將当時のマーキングを再現しています。

D 機体塗装の基本色

(P + M)	Light Blue
(P)	370 - エイザーブルー 50%
	Azure Blue
(M)	3634761 ミディアムシーグレイ 50%
	Medium Sea Grey

コーションデカール(各機共通)



★ワークウェイ (38・39) は、主翼前縁帯 (36・37) と国籍マーク (1または 5) の下になるように、先に貼ってください。